

「東京一極集中を考える」

東京への人口や機能や仕事や資金の一極集中が問題になっていきます。どうして皆東京にあつまるとか。人の大勢は豊かさを求めて生きており、豊かさも多様ですが、仕事や楽しみ方の、経済的な豊かさ、選択肢の豊かさ等、より自由で希望のある生き方を求めて東京に若者を中心に集まって来ているように思います。日本国内では東京ですが、世界的に云えば、ニューヨークやロンドン、パリ、シンガポール、上海といった大都市は東京以上の魅力を持って、世界中から人が集まって来ていると思います。

東京の魅力が高まれば、国内における東京一極集中がさらに進むと同時に、世界中から人が集まって、日本の魅力を高め、日本全体に外国から人が集まって来ることに繋がります。東京の魅力を高めることは必ずしも悪い事ではないと思います。ただ、東京一極集中の大きな問題は、地方の人口減少に拍車がかかり、地方コミュニティの多くが消滅の危機に瀕してしまっていることです。

仕事や暮らしの豊かさの魅力によって相対的な街の求心力の綱引きが起ります。残念ながらながら綱引きに負けた地域からは人が離れていきやすくなります。人が少なくなると街の機能も少なくなるとなると魅力も減ってきて、さらに人が少なくなり、最後には生活に最低限必要な機能まで維持出来なくなると、コミュニティそのものが崩壊してしまいます。東京一極集中は、何も東京の問題だけではなく、九州における福岡一極集中、大分県における大分市一極集中、市内における市街地一極集中も同質の問題であり、その対策である地方創生もこういった多様な都市間競争の問題であり、地域コミュニティの機能維持の問題です。

都市間競争は世界中で起こっていることで、日本国内で無理矢理人口移動を止めようとしても、日本の魅力を低下させて、国外に人口を流出させることにもなってしまいます。江戸時代には土地から移動することを規制していたようですが、そんな前近代的な規制が出来るはずもありませんし、そんなことをすれば多くの人が日本から逃げ出してしまおうでしょう。ですから地方創生は、一極集中が起

こっている原理であるところの地域の魅力を高めることしか解決方法がありません。それで国の地方創生対策も、地域の魅力を高める努力を応援するというのがスタンスなので、その地域の人が自ら地域の魅力を高めるしか人口減少を食い止める方法はありません。島根県隠岐郡海士町の取り組みはその好例です。大分県においても姫島村や豊後大野市の取り組みは注目されてきました。これからはその地域のリーダー、とりわけ首長の力量が地域の運命を握る時代になってきた訳です。

地域が廃れてくる事への愚痴や不満をいくら口にしても何も解決しません。国や県に事業と予算を求めても、お金もそんなにありません。すでに国も地方も社会保障費の負担増大で借金漬けになり、首が回リません。甲斐の無いことに血道を上げるより、本質的で前向きな取り組みに汗を流した方が改善の可能性が開けてきます。地域も企業も個人も力量が問われる時代です。公的な援助が期待出来る時代はとっくに終わっています。その時代の幻影にいつまでもしがみついているべきではありません。1日でも早く前向きな取り組みへの一歩を踏み出した人が、他の人を一歩引き離すことが出来ます。この一歩先んじることが大切で、世の中は相対的な世界ですから、一歩先んじることが大きな違いと利益をもたらします。

Facebook でも活動報告を行っています。〈Facebook アドレス〉 <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あなみ よういち

衆議院議員

穴見陽一

後援会
事務所

〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net

